

臥竜塾年間講座 2018

「幼児期の終わりまでに育てたい10の姿」 第1回「健康な心と体」

第61号 2018年4月30日発行

ミマモルジュ挨拶

ホテルに宿泊客の様々な相談や
ご要望に応えるコンシェルジュがいる
ように、保育においても様々な
ご要望や悩みがあると思います。

「見守る」+「コンシェルジュ」=
ミマモルジュとして、保育に関する
ご要望にお応えしていけるよう
活動していきます。

株式会社カガヤ 奥山卓矢

臥竜塾年間講座 2018 開講

臥竜塾年間講座とは、新宿せいが子ども園で年間テーマを設け、
実施している年間講座のことです。

昨年は「文字・数・科学」をテーマに10回の講座が行われ、
今年度は「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」に
ついて毎月1項目ずつ解説を行っていきます。

そもそも、10の姿とは何か？

まず、今回の三法令改定に伴い、三法令共通の内容として、
**幼児教育で育みたい3つの資質・能力と幼児期の終わり
までに育ってほしい姿**があります。

幼児教育で育みたい3つの資質・能力

- ・知識及び技術の基礎
- ・思考力・判断力表現力などの基礎
- ・学びに向かう力、人間性等

「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」

- ①健康な心と体
- ②自立心
- ③協同性
- ④道徳性・規範意識の芽生え
- ⑤社会生活との関わり
- ⑥思考力の芽生え
- ⑦自然との関わり・生命尊重
- ⑧数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
- ⑨言葉による伝え合い
- ⑩豊かな感性と表現



講座の様子



キャッチコピー：
今日の私は「しずかにできた」

【写真の背景】

年長さんが給食の掃除後に行った
自己評価の場面。

お掃除自己評価表は、赤●がほうき・ちりとり。青●がぞうきんがけ。黄●…。紫●が、しずかにできた。緑●がおてつだいです。お掃除後に、自分はどれを頑張ったかを年長の子に聞き、その色のペンを渡し、自己評価をしています。この男の子は紫●しずかにできたを貰いに来て、自分なりに頑張ったことを先生に伝えに来てくれている場面の写真。

【ポイント1】

この「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、5領域の内容等を踏まえ、特に5歳児の後半にねらいを達成するために、教師が指導し幼児が身に付けていくことが望まれるものを抽出し、具体的な姿として整理したものであり、それぞれの項目が個別に取り出されて指導されるものではない。もとより、幼児教育は環境を通して行うものであり、とりわけ幼児の主体的な活動としての遊びを通して、これらの姿が育っていくことに留意する必要がある。

【ポイント2】

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、5歳児だけでなく、3歳児、4歳児においても、これを念頭に置きながら指導が行われることが望まれる。その際、3歳児、4歳児それぞれの時期にふさわしい指導の積み重ねが、この「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」につながっていくことに留意する必要がある。

【ポイント3】

幼児教育と小学校教育の円滑な接続を図る観点から、5歳児修了時までに育ってほしい具体的な姿について10項目に整理した「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を幼稚園教育要領等に新たに位置付ける。

参考：文部科学省 資料1 幼児教育部会取りまとめ（案）

www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/057/siryo/attach/1373429.htm

→資質・能力は乳幼児期から少しずつ育っていき、
幼児期の終わりの頃に具体的に10の姿として現れる。

「10の姿」その1

健康な心と体

保育所の生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。



今回の優秀作品

キャッチコピー：

「今はこっちにいたいんだ」

【写真の背景】

2歳児クラスの朝のお集り。

先生が絵本を読んでいる場面ですが、右にいる子は読んでもらいたい絵本を読んでもらえず、その気持ちを言葉で言えず行動で、ここに執着があると居座る形で気持ちを表している写真。

事例1 慣らし保育での「健康な心と身体」

保護者が安心すると子どもも安心して、まずは保護者は安心するように赤ちゃんが泣いていても大丈夫ですよという。子どももちらちら顔を見る、確認するというか安心していい場所なのだ確認して、応答的に関わることで求められたものに応じ、子変えるようにする。安心した空気の中で慣らし保育を行い、次第に慣れていって5歳児クラスの子が面倒を見に来てくれ、5歳児の子が入ってくれることでこっと安心できるという者を感じている。

事例2 01歳児保育室の「健康な心と身体」

01歳の子どもは発達に差があり、食べる・寝る・遊ぶ環境を分けています。一つの部屋で活動をしていると途中で中断することもあり、3つの空間に分かれることで中断せずにでき、子どもは満たされ充実感を持って過ごせます。0歳が主に過ごしているスペースだが歩き始めるまでの子がいたり、ハイハイ、伝い歩きする子がいて、歩き始めの子がいると危ないので発達に合わせていくことが大事で、指針の「健やかに伸び伸びと育つ」の内容の取扱いにも以下のように書かれています。

心と体の健康は、相互に密接な関連があるものであることを踏まえ、温かい触れ合いの中で、心と体の発達を促すこと。特に、寝返り、お座り、はいはい、つかまり立ち、伝い歩きなど、発育に応じて、遊びの中で体を動かす機会を十分に確保し、自ら体を動かそうとする意欲が育つようにすること。

ワークショップ

「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」の項目ごとに沿った写真を撮り、キャッチコピーをつけて持ち寄ります。

グループに分かれ、写真のシーンがどのようなことが読み取れるか、グループディスカッションを行っていきます。

グループディスカッションを行い、各園から持ち寄られた写真の中からテーマに適しているか作品を一つグループで選び、その後講座参加者全員の多数決で優秀作品を選びます。



キャッチコピー：
夢中になると無口になるけど、
君の声は届いている

●過去のバックナンバー

第58号

『聴福庵』2年を振り返って③

第59号、第60号

ミマモリングソフトの開発の
経緯と活用事例①、②

<http://www.caguya.co.jp/topics/news/p9889/>

優秀作品に選ばれた方は、そのシーンの背景やなぜそのキャッチコピーにしたかなどの説明をして頂きます。

今回は、プレワークショップということで、子どもの権利条約の「意見の表明権」から約10点がエントリーされました。

次回、5月24日（木）の臥竜塾年間講座では「健康な心と体」のシーンの写真を各園から持ち寄り、ディスカッションを行います。

臥竜塾年間講座を終えて思うこと

今年も臥竜塾年間講座がはじまりました。

昨年度も参加をしながら、次年度のテーマは何だろうか？と楽しみにしていました。

そして、今年度は「幼児期の終わりまでに育ててほしい10の姿」ということで、10の項目は分かりませんが、実際の子どもたちの姿でいうと何だろうかと考えてしまいます。それを、実際の子どもたちの写真や動画を用いて解説がなされるとその理解が深まっていきます。

そして、ワークショップでは10の姿を項目ごとに各園から写真を持ち寄り、ディスカッションを行う新たな取り組みがはじまります。

写真を観て子どもたちの様子を読み取っていくその中に、子どもたち同士のドラマがあり成長があると思うと、とても深い取り組みになりそうだと今からワクワクしてしまいます。

（報告者：株式会社カグヤ 奥山卓矢）



〒161-0023

東京都新宿区西新宿3-2-11 新宿三井ビルディング2号館10階

Tel:03-5909-7155

毎週月曜日に配信しています。

ミマモルジュメールマガジン発行：株式会社カグヤ 奥山卓矢

ミマモルジュメールマガジン



メールマガジンのご登録は、
QRコードからお願いします。